

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	愛宕 藍	学校名	習志野市立第六中学校
実施学年	3学年	教科	国語
単元名	「声なき遺品に思いを馳せて」 (教育出版 中学国語3 『薔薇のボタン』より)		

《学びを深めたいポイント》

直接的な描写(戦争の悲惨さ、現状などが明記されていない)が少ない中で、被爆した少女たちの存在や思いを「美しく撮られた写真」「薔薇のボタン」という象徴的な存在から想像し、意味を見出す読解が求められる。こうした題材を通して、生徒が自らの読みを丁寧に言葉に表し、既習事項を振り返り、仲間と共有・対話しながら考えを深めていく経験を積むことで、表現への自信を高めていくことが期待される。本単元では、明確な答えのない問いに向き合うことで、生徒一人一人の内にある読解を引き出し、それを仲間と共有する力を育てていくことが求められる。そのため、生徒が安心して自分の考えを表現できるような対話的な学習環境を整えるとともに、自らの読みを肯定的に受け止められる機会を設けていく。その中で「一言 PR」を展開し、各自自由な読解を表出し、鑑賞する機会を設定した。

《SKYMENU 活用のポイント》

本実践では、SKYMENU を活用し、『一言 PR』の共有ツールに「発表ノート」を選択した。5クラス中2クラスは「ふきだしくん」、3クラスは「発表ノート」での共有を図った。「ふきだしくん」は一日限りの URL であり、画像での保存をなさらないと記録が消失してしまうというデメリットがあるため、共有ができかつ共有したノートがポートフォリオ化される「発表ノート」を活用した。画像や必要事項は固定化・背景化でき、テキストは自由にコピーすることができるメリットが活かされる展開となった。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	<ul style="list-style-type: none"> ◎「一枚の写真」に思いを馳せる。 ○この写真は梯さんの仕事場に掛けてあるものです。常に目にはいるものですが、なぜでしょうか。 ・赤ラインの下に考えを書く。 		
展開	筆者の思いを追体験し、「声なき遺品」である写真に込められた思いを捉える。		
	<ul style="list-style-type: none"> ◎本時の学習課題を確認する。 ○本時の学習課題を書きましょう。 ・ノートを開き板書をはじめ。 ○梯さんがこの写真をなぜ掛け続けているのか、読み考えます。教科書を開いてください。 		

